

令和3年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
評価報告書

研 究 テ ー マ 名	地域農業の持続可能性の向上に向けた農業法人の総合的企業価値の評価手法の開発に関する研究
政策研連携研究課題名	農業法人の社会・環境的機能の理論的検討と企業価値評価手法の開発に関する研究
研 究 実 施 期 間	令和3年度～令和5年度
研 究 の 概 要	本年度は、まず総合的な企業価値評価の考え方を整理するため、文献サーベイ等を行った。総合的企業価値評価に当たっては従来の企業価値評価（財務やビジネス等のデューデリジェンス）とともに、ESG等の視点からの検討が重要であり、SDGs、ESGに関わる要素等の洗い出しを行った。 次に、昨年度、日本農業法人協会に依頼して実施したアンケートを利用して、農業法人の経営状況、SDGsへの取り組みの実施状況等を分析した。 また、農業経営統計調査（農林水産省統計部）等の個票を活用して、試行的に農業法人（水田作）の企業価値評価を行った。 こうした研究内容については、研究推進会議も含め、学識経験者・実務家との意見交換を進めながら、ブラッシュアップを図っている。 ①農業法人の社会・環境的機能の理論的検討 まず総合的な企業価値評価の考え方を整理するため、文献サーベイ等を行った。総合的企業価値評価に当たっては従来の企業価値評価（財務やビジネス等のデューデリジェンス）とともに、ESG等の視点からの検討が重要であり、SDGs、ESGに関わる要素等の洗い出しを行った。 次に、昨年度、日本農業法人協会に依頼して実施したアンケートを利用して、農業法人の経営状況、SDGsへの取り組みの実施状況等を分析した。分析結果では、SDGsへの理解や取り組みがある法人ほど、後継者が確保されていたり、規模拡大意向が高く、持続的に経営発展する可能性が高いことが示された。 ②農業法人の企業価値評価手法の開発と試行的評価に関する研究 本研究では従来型の企業価値評価に加えて、SDGs、ESG

	の要素を考慮した総合的な企業価値評価手法の開発が目標であるが、これまで農業法人に関して、従来型の手法（DCF等）で企業価値評価がなされ、公表されたケースはみられなかった。そこで、農業経営統計調査（農林水産省統計部）等の個票を活用した評価方法を検討し、試行的に農業法人（水田作）の企業価値評価を行った。回帰分析の結果から、企業価値に影響する要素として単収や利益率が上げられることが明らかとなった。今後、園芸作、畜産等の部門に拡大し、比較評価を行いつつ、部門ごとの特性を評価する必要がある。
評 価 結 果 ○評価委員会名及び開催日 連携研究スキームによる研究 研究テーマ「地域農業の持続可能性の向上に向けた農業法人の総合的企業価値の評価手法の開発に関する研究」外部評価委員会 令和3年3月2日 WEB 開催 ○評価委員名 荒井 聡 委員 （福島大学農学群食農学類・教授） 小林 剛 委員 （山口県山口農林水産事務所・農業部長） 橋口 卓也 委員 （明治大学農学部食料環境政策学科・教授） ○評価基準 ・社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある A:大きな意義がある B:意義がある C:意義が小さい D:意義は見出しがたい ・政策の企画・立案への貢献	【評価項目ごとの評価】（ ）内は3名の委員の投票数を示す。 ○ 社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある（1） A:大きな意義がある（2） ○ 政策研究と連携して研究することによる政策研究への示唆の評価 A:大きな貢献が見込める（2） B:貢献が見込める（1） ○ 学術面からみた研究成果の評価 S:学術的に非常に高く評価できる（1） A:学術的に高く評価できる（2） ○ 研究計画の妥当性 A:妥当である（2） B:概ね妥当である（1） ○ 研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である（3） ○ 研究目標の達成度 A:達成度は高い（1） B:概ね達成している（2） 【総合評価】（ ）内は3名の委員の投票数を示す。 1:順調に進行しており、問題はない（2） 2:ほぼ順調であるが、改善の余地がある（1） 【評価委員からの主な意見】 ○企業のもつ社会・環境的機能に大きな注目が集まる中、農業法人についても、その評価手法を開発することは大きな意義があり、農業法人への支援策などを考える上でも重要であろう。 ○農業法人の社会・環境的機能については、その理論的検討と事例分析を適切に組み合わせることで説得力のある研究成果が期待でき、また政策企画立案への大き

S.非常に大きな貢献が見込める A.大きな貢献が見込める B.貢献が見込める C.貢献が小さい D.貢献は見込みがたい ・ 学術面からみた研究成果の評価 S.学術的に非常に高く評価できる A.学術的に高く評価できる B.学術的に評価できる C.学術的な評価はやや低い D.学術的評価は低い ・ 研究計画の妥当性 S.非常によい A.妥当である B.概ね妥当である C.やや妥当でない D.妥当ではない ・ 研究資源・実施体制の妥当性 S.非常に良い A.妥当である B.概ね妥当である C.やや妥当でない D.見直しが必要である ・ 研究目標の達成度 S.達成度は非常に高い A.達成度は高い B.概ね達成している C.達成度はやや低い D.達成度は低い ・ 総合評価 1.順調に進行しており、問題ない 2.ほぼ順調であるが、改善の余地がある 3.計画等を変更する必要がある	な貢献が見込める。 ○地域農業の維持発展のために、本研究でSDGs、ESG等を踏まえた農業法人の多面的評価について分析することは、農業、農村の持つ多面的な機能を再評価できるようになるとともに、これまでの視点と違った国民の農業理解が進むことを期待している。 ○農業法人は他産業と比較して規模が小さいこと、また部門によっても大きな差異があることには十分な考慮が必要であろう。さらに、農業法人自身の持続性のみならず地域農業の持続性という点を十分に配慮することが重要だと考えられる。 ○新しい研究なのである程度まとめれば、定例研究会だけでなく、現場にも広く意見を聞き、研究を進めていただきたい。
--	---

4.中止すべきである	
今 後 の 対 応 方 針	令和３年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、現地調査ができなかったため、理論及びアンケート分析に取り組んだ。令和４年度以降は、農業法人等へのヒアリング調査を進めることとで、理論の適用可能性を検証し、理論と実態の融合あるいは乖離を解消したい。